

## 主体性を育む アクティブラーニング

9月7日

1

### 1.

- リヤカーの場面から
  - すごいなあ、おもしろいなあ、すてきななあと思ったところ。
    - 自由に、メモしてください。
    - 3つほど。
- 3、4人のグループで
  - どんな気づきがあったか、伝え合ってみてください。
  - 「はじめまして」から、伝え合ってみてください。
  - ○○保育園の○○です。
    - ふだんは3歳クラスを担当しています。などなど

2

### 2.

- ① 子どもたちの呼びかけに応じて集まってくる他の子どもたち。
- ② リヤカーが動いた後に「みんなの力だね」と褒め合える。
- ③ 子どもたちの中に「いろいろな視点」がある。
  - 力が足りないから押す。
  - タイヤを持ち上げようとしたり。
- ④ (保育者) 危険なこと、危ないことだけに声掛けして、基本的に見守る。
- ⑤ 子どもたちが助けを求めても、信じて見守る。

3

### 3.

- ③ 子どもたちの中に「いろいろな視点」がある。
  - 力が足りないから押す。
  - タイヤを持ち上げようとしたり。
- 資料p24：学びの深さには三つのレベルがある。
  - 「主体的で、対話的で、深い学び」
    - 学習1：教えられた正しいやり方
    - 学習2：自分たちなりのやり方
    - 学習3：新しいやり方
- エンゲストローム：フィンランドの教育学者
  - アクティブラーニングを提唱した人

4

#### 4.

- 「深い学び」が生まれている。
  - どうして生まれているのか？
    - ④ (保育者) 危険なこと、危ないことだけに声掛けして、基本的に見守る。
    - ⑤ 子どもたちが助けを求めても、信じて見守る。
- 「深い学び」が生まれるには？
  - 「正しいやり方」を教える。その場面を極力、減らす。
    - 1. 保育者が呼ばれてもいないのに、教えに行く。
    - 2. 子どもに呼ばれても、「自分たちでやっごらん」。
- 「正しいやり方」よりも、「その子なりのやり方」が大事だ。
  - 子どもたちがいろいろ試す。

5

- 2時半から再開します。
  - 休憩します。

6

#### 5.

- 「深い学び」(アクティブラーニング)を生み出すために
  - 参考になるのは「学びには五つの段階がある」
- 1. やりたい！
- **2. やりたいけど、できない。できないけど、やりたい。**
- 3. やった！できた！
- 4. いつでも、どこでもやりこなせる。
- 5. できるようになったことが周囲に波及する。

7

#### 6.

- 「やりたい！」に火がつくときと、つかないとき。
  - 子どもどうして火をつける。
    - 「上の子の姿」が「下の子」の「やりたい！」に火をつける。
  - 虫、水、土、泥といった人間を超えたものが、火をつける。
- 保育者にできるのは「やっごらん」の声かけか、「上の子の姿」や虫に出会える環境を構成してあげること。
- 「やりたいけど、できない」を見守ることができるときと、できないとき。
- 「やりたいけど、できない」が続くときと、続かないとき。

8

## 7.

- ① 子どもたちの呼びかけに応じて集まってくる他の子どもたち。
- ② リヤカーが動いた後に「みんなの力だね」と褒め合える。
  
- アクティブラーニングを実現するうえで大事なものは「やりたいけど、できない。できないけど、やりたい」という学びの段階を大事にすること。
  - それは言い換えると、安心して失敗できる環境をつくってあげること。
  - 「できないこと」は恥ずかしいことじゃないんだ。その感覚を子どもたちの中に開花させてあげること。

9

## 8.

- それは言い換えると、安心して失敗できる環境をつくってあげること。
  - 「できないこと」は恥ずかしいことじゃないんだ。その感覚を子どもたちの中に開花させてあげること。
  
- 自信型：できないけど、やりたいから、やる。
- 不安型：できないから、やりたいけど、やらない。
  
- 「できないこと」を恥ずかしがるどころか、さらけ出して。
  - そうして「助けて」「教えて」を安心して、口にしています。
  
- できるかどうかじゃないよ。やろうとするかどうかだよ。

10

## 9.

- 自信型：できないけど、やりたいから、やる。
- 不安型：できないから、やりたいけど、やらない。
  
- 第一期： 信頼 と 不信 とが葛藤している（せめぎ合っている）
  - 信頼： 離れても、戻ってきてくれる。
    - 応答してもらえる。
    - 助けて！と言えば、助けてもらえる。
    - 貸しても、「返して」と言えば、返してもらえる。
  
  - 不信： 離れたら、戻ってこない。
    - 応答してもらえない。
    - 助けて！と言っても、助けてもらえない。
    - できないと、見放される。

11

## 10.

- 「信頼」の空気をどうやってつくるか？
  
- ストローの場面（1歳児の食事）
  - 1. 保育者がやってあげる
    - ★ 「せんせいは、ちゃんと応答してくれる人だ」
    - 保育者と子どもとの信頼関係（第一期）
  
  - 2. 友達にやってもらう
    - ★ 子どもどうしの信頼関係（第一期）
    - ● 貸したら返ってこない。どころか、奪われる。
  
  - 3. 自分でやってごらん
    - ★ 自立を促す（第二期）

12

## 11.

- 「信頼」の空気をどうやってつくるか？
  - 子どもどうしの信頼関係をどうつくるか？
- ①. 友達にやってもらう
  - 保育者に欲求表出（助けて！）を言ったとしても、友達に助けてもらう（応答してもらう）
- ② ある程度の「大きさ」「高さ」「重さ」のある道具（遊具、素材）を活動の中に取り入れる。
  - プレイルームを、ランチルームに変えるとき、配膳台を運ぶ。
- ③ ハプニングを優先する。
  - 日案より、ハプニングを2分間だけ優先する。

13

## 12.

- 子どもが安心して自己主張できる。自己発揮、自己決定できる。
  - そんな環境を、つくってやりたい。
- 広げっぱなし、出しっぱなし、どこまで許していいんですか。

14

## 13. 千葉の研修会で出てきた質問

- いただいた質問
  - 質問1：どこまで子どもの気持ちを大切にしてくれるか？
    - どこまで援助をしていいのか？
  - 質問2：思っているけれど、なかなか行動に移せない子は主体性の子？
    - = 「しない」という主体性もあるような？
  - 質問3：どこまで自由にやらせていいのか？
    - どこまで手助けすればいいのか？
      - 子どもの想いも尊重してあげたい、けど、時間が。

15

## 14.

- 第二期
  - 自分のことは自分で決めたい という自己決定の欲求
- 「じぶんで！」「やなの！」とか言い始める。
  - それは、そういう言葉を出して、せんせいはちゃんとそばにいてくれる。応答してくれる。戻ってきてくれる。
    - その信頼感があるから、「じぶんで！」を口にする。
- 「みてて！みてて！」
  - せんせいの期待に応えたい。一人前扱いされたい。一人の人間として認めて欲しい。
    - その姿を見せるから、ちゃんと視線を向けてね。
- 自分で決めたい自己決定の気持ち と 周囲の期待に応えて、一人前扱いされたい気持ち との せめぎ合い

16

## 15.

- 自分で決めたい自己決定の気持ち と 周囲の期待に応じて、一人前扱いされたい気持ち との せめぎ合い
- 二つの点で注意が必要。
  - 1. 自分で決める > 期待に応える
    - やりたいこと > やらなきゃいけないこと
    - ★気をつけてないと「やらなきゃいけないこと」「期待に応える」ことばかりやってくれる。
      - おりこうさんになりすぎちゃう。
      - 過剰適応。
  - 2. 期待を伝える。
    - 降りて。
    - 未来を一緒につくろうよ。の前向きさ。
  - 禁止を伝える。
    - 登らないで。
    - 過去を責める言い方。その後ろ向き。

17

## 16. 今日の最後に

- 下の二点を、周囲の方と振り返ってみてください。
  - ① 自分にとって、今日のポイントだと思ったところ。
    - 2つ、3つで十分です。
  - ② 生まれてきてしまった疑問・質問
- 4時10分まで時間を取ります。

18

## 17.

- 質問1：おもちゃをとった。その後に、泣いていた子をなだめていた。
  - 取った後に、取られたおもちゃを返してあげるのか？
    - 泣いている子が不憫。
    - おもちゃを返してあげる。
- 回答1：
  - 子ども理解：「信頼の関係」が出来ていない。
    - 出来ていないまま、自己発揮が始まってしまった。
  - 保育方針：自己発揮を尊重するよりは、「信頼の関係」をまずつくる。

19

## 18.

- 回答1：
  - 子ども理解：「信頼の関係」が出来ていない。
    - 出来ていないまま、自己発揮が始まってしまった。
  - 保育方針：自己発揮を尊重するよりは、「信頼の関係」をまずつくる。
    - 加えて、「第三期」の関係つくれるかな？
- 第三期：約束をつくる、見通しを共有する（順番をつくる）、役割を分担する。イメージをもつ。
  - 順番をつくる＝譲っても自分の番がくる（第一期：信頼の関係）
    - 割と遠い未来を、イメージできる（第三期）
- 「つまんないよ。ずるいよ」「みんなで楽しく遊びたいよ！」
  - 正しいことは楽しいな。

20

## 19.

- 回答1：
- 第三期：約束をつくる、見通しを共有する（順番をつくる）、役割を分担する。イメージをもつ。
  - 順番をつくる＝譲っても自分の番がくる（第一期：信頼の関係）
    - 割と遠い未来を、イメージできる（第三期）
- 「つまんないよ。ずるいよ」「みんなで楽しく遊びたいよ！」
  - 正しいことは楽しいな。
- 「たのしいよ！」「たのしいね」
  - 「すごいよ」「すごいね」
    - 「おいしいよ」「おいしいね」
      - 一緒に笑って楽しんで記憶
- 「正しさ」は「楽しさ」のあとについてくる。